様式1

令和４年度　学校評価表

学校教育目標	確かな学力を身に付け，心豊かにたくましく，ともに学ぶ児童の育成　～チーム・感謝・挨拶～

a　ミッション	○　中学校区で取り組む自己肯定感の向上による教育の推進	a　ビジョン	○　「自ら学ぶ子」「ともに学ぶ子」を育てる学校 ○　通ってよかった・通わせてよかったと実感できる安心・安全な学校 ○　児童が憧れ頼れる教職員を育成する学校

尾道市立久保小学校

評価計画						自己評価					学校関係者評価				改善計画
	b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月 g 達成値	1月 g 達成値	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価 イ	ロ	ハ	l コメント	m 改善案
確かな学力の育成	「主体的な学び」を促す授業づくりを進め，基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力の育成を図る。	主体的に学ぶ力の育成	○算数科を中心に「ほめ」と「対話」のある授業を実践する。 ・算数的な見方・考え方をほめる。 ・主体的な態度をほめる。 ・児童同士の関わりのある場を設ける。	○学期末のテストと学期末実力テストにおいて，クラスの平均点を，目標値（学期末テスト：低学年９０%・高学年８０%以上，学期末実力テスト：低学年８５%・高学年７５%以上）にする。 ○標準学力調査（１２月）において，クラスの平均点を全国平均以上にする。 ○主体性に関するアンケートを，目標値以上（４段階評価の内，３以上の評価をした児童８０%以上）	＜学期末テスト＞ １年生：９０ ２年生：９０ ３年生：９０ ４年生：８０ ５年生：８０ ６年生：８０ 学校合計　５１０ ＜実力テスト＞ １年生：８５ ２年生：８５ ３年生：８５ ４年生：７５ ５年生：７５ ６年生：７５ 学校合計　４８０ ＜標準学力調査＞ １２月に実施 ＜主体性に関するアンケート＞ ４段階評価の内，３以上の評価をした児童８０%以上	＜学年末テスト＞ １年生：98.7 ２年生：95.0 ３年生：94.0 ４年生：83.5 ５年生：83.5 ６年生：90.5 学年合計　545.2 ＜実力テスト＞ １年生：63.6 ２年生：77.1 ３年生：78.2 ４年生：70.8 ５年生：80.3 ６年生：72.9 学校合計　442.9 ＜主体性に関するアンケート＞ ４段階評価の内，３以上の評価をした児童80.8%		１０６ ９２ １０１	B	・学年末テスト（算数科）のクラス平均が目標値を全学年で上回った。ほめところをおさえた算数科授業の継続の成果といえる。しかし，目標値以下の児童が各クラス４~８人程度いる。個別の学習支援に課題がある。 ・実力テスト（算数科）の目標値を上回ったのは５年生だけだった。基礎力は概ね定着している学年もあるが，数の読み取りや問題文の確実な読み取りができていない児童が多くいる。 ・主体性に関しては，アンケート結果より，算数科の授業に対して意欲的な児童が多い一方で，自分の考えを伝えることに苦手意識のある児童が31.7%と多いことが分かった。また，算数の学習に自信がない児童も29.1%いた。	３			○目標に対する方策が明確であり，職員みんなでベクトルをそろえて取り組める物になっている。 ○経営目標に対する指標に基づき，結果と課題が整理されており，後半（２・３学期）への期待が持てる。 ○自己肯定感を高めるために各授業の中で「ほめ」と「対話」を重視した授業づくりが見て取れる。このことは，高校でも活用できる視点であるので参考にしたい。 ○アンケート結果より，児童の自己肯定感が高まり，学びに向かう姿があると感じた。 ○現状を踏まえた上での目標値の設定だと思われるが，達成度の割に課題が多いように思う。	・主体的に学ぶ力の育成に向けた「ほめ」と「対話」のある授業づくりについての研究を全職員で継続していく。 ・授業中でのTTによる支援や，朝トレ・グッバイタイムを確実に実施することにより，児童の学習の習熟を図っていく。 ・自分の考えを伝える力が持てるような手立てを講じる。 ・児童の自己肯定感をよりあげていくために，算数科以外でもしっかりほめぬくことと，振り返りの時間を充実させ，自己変容に気づき，自らへの自信へとつなげていく。
豊かな心と体の育成	生徒指導の三機能を生かした指導を充実し，自己指導能力の育成を図る。	対話を通したコミュニケーション能力の育成	○「久保のこだわり」を実践する。 ※「久保のこだわり」とは，ていねいな言葉遣いについて指標に表したものである。 ・「久保のこだわり」を徹底指導する。 ・アンケートの実施 ・言葉遣い名人の選出 ・久保のこだわり名人殿堂入りの認証 「言葉遣い名人」延べ３回選出された児童	○アンケートで肯定的な回答をした児童の割合 ・肯定的な回答をした児童÷全校児童数×100	85	90		106	A	・「久保のこだわり」アンケートの結果から，「授業中，『久保のこだわり』に気をつけて話しましたか？」の項目は９０%で，目標値を上回った。この取組を続けることで，授業中だけでなく，休憩時間の教師との会話や所作が身に付いてきている児童が増えてきている。しかし，ていねいな言葉遣いを心がけようとするが，正しく遣うことができない児童がいる。 ・「久保のこだわり」アンケートの項目「授業中，名前を呼ばれたときに『はいっ』と返事ができましたか？」では，８６%の児童が肯定的に評価していた。多くの児童が自己達成感を感じることができていると考えられるが，授業の中で，教師が返事の言い直しをさせることがあるのも事実である。	３			○経営目標に対する指標に基づき，結果と課題が整理されており，後半（２・３学期）への期待が持てる。 ○返事について家庭ではどこまでできているのか，保護者の受け止め方も大切なのではないか。 ○現状を踏まえた上での目標値の設定だと思われるが，達成度の割に課題が多いように思う。	○２学期は，「返事」を重点的に取り組む。 ・２学期スタート時に，「久保のこだわり」の返事について，「はいっ」の「っ」にこだわっていくことを児童に伝える。 ・名前を呼んだ人に目線を合わせて返事ができるようになることを目標とし，できていない児童には，繰り返し呼ぶことで，返事への意識を持たせる。 ・児童だけでなく，教師も返事の仕方や目線の合わせ方を意識し，児童の模範となる。 （朝の健康観察，授業中の呼名等）
		自己の体力を伸ばす子供の育成	○久保小アスリート検定（なわとび）を実施する。 １　各学年の体力に応じたレベルに挑戦させる。 ・体育科の授業のうち運動場で行う場合になわとびに取り組む。 ・期間を設けて，期間内に週１回大休憩に全校でなわとびに取り組む。 ２　運動をすることが好きな児童を育てる。	１　各学年の目標をクリアした児童の割合を目標値以上にする。 ・各学年でクリアした項目の総数÷（項目数×実施した人数）×１００ ２　運動好きに関するアンケート調査を行い，初回の値と比べて維持または向上した児童の割合を目標値以上にする。	１　８０ ２　８０	１レベルクリア １年生：6.7 ２年生：０ ３年生：41.2 ４年生：15.4 ５年生：41.2 ６年生：23.8 学校平均：21.4 ２　アンケート １年生：73.3 ２年生：73.3 ３年生：94.1 ４年生：100 ５年生：100 ６年生：95 学校平均：89.3		２７ １１２	C	・１学期は運動会に向けた取組や水泳があり、なわとびに取り組む機会が少なかった。それに加えて、新型コロナウイルス感染による学年閉鎖や熱中症警戒アラート等により実施できない日も重なったため、各学年の目標をクリアした児童の割合は、目標値よりも大幅に下回っている。また、期間を設けて期間内に週１回大休憩に全校でなわとびに取り組むことについては、先述の学年閉鎖や熱中症警戒アラート等のために１学期は取りやめることとした。 ・運動好きに関するアンケート調査結果は、低学年で80%を下回る結果となったが、３年ぶりに水泳が始まったため、苦手な児童が自己評価を下げたものと思われる。全体的には体を動かすことが好きな児童が多いと感じる。	３			○体力について，年度末に目標が達成されることを期待する。 ○「体力づくり」の取組は今後も継続してほしい。	・アスリート検定（なわとび）の取組を継続していく。また，体育科の準備運動についても，１学期同様に継続して実施する。 【運動場】準備体操＋なわとび３分→本時の授業 【体育館】準備体操＋リバウンドジャンプ１０回×５＋鬼ごっこ→本時の授業 ・大休憩に全校でなわとびに取り組む時間を確保する。熱中症や感染対策等，安全に配慮して実施できるようにする。 ・くぼリンピックに向けた取組として，大休憩マラソンを計画している。しっかりと自分と向き合い，楽しみながら体力向上に努める児童を育てられるよう支援していく。

久保中学校とともに

ともに学ぶ学校づくり	小・中学校が同じ場所で学ぶ良さを生かし，自己肯定感・自己有用感の育成を図る。	愛拶を通した達成感・自己肯定感の育成	児童・生徒・教職員による「朝の（スマイルアクション）グリーティング（SAG）」の実施	朝，中学生に（アクションをつけて笑顔で）愛拶ができたと実感できた児童	50	34.7		69	C	・中学生に挨拶ができたと実感した児童の割合は34.7%であり,目標値までには差がある。しかし,4月と7月の数値を比較すると,4.2%上昇しており,少しずつ関わりができている。コロナの影響で児童生徒の顔合わせが中止になるなど直接の交流はできなかったが,小中学校の代表が校内放送でメッセージを贈ったり,生徒会から小学校に運動会の応援メッセージが贈られるなど，心温まる交流はできている。	３			○挨拶については，もっと小中学校で一緒に取り組めるとよいが，コロナ禍では難しいところもある。 ○中学生から小学生に挨拶できるように取り組みを進めたい。 ○コロナ禍で難しいとは思うが，中学生との交流場面を与えてやって欲しい。	・小学生と中学生がコミュニケーションをとることできる機会を設定する必要がある。そのために，生徒会と児童会を中心として，小中でコミュニケーションを図ることができる交流を企画していく。 ・中学校との連携については，生徒指導主事を中心として，生徒会や児童会が企画できるためのサポートや運営の補助などを行っていけるように取り組みを進めていく。

【自己評価　評価】
Ａ：１００≦（目標達成）　　Ｂ：８０≦（ほぼ達成）＜１００
Ｃ：６０≦（もう少し）＜８０　　Ｄ：（できていない）＜６０

【外部評価】　イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。　ハ：わからない。